

日本古生物学会 2019年年会

2019年6月21日（金）～6月23日（日）

静岡県男女共同参画センターあざれあ

静岡大学 静岡キャンパス

***** 1. プログラム 概要 *****

6月21日（金）会場：静岡県男女共同参画センターあざれあ

- 【13:00-16:50】 シンポジウム「地球環境史と生命史」 ii
- 【17:00-18:10】 総会 ii
- 【18:30-20:30】 懇親会（クーポール会館） iii

6月22日（土）会場：静岡大学・共通教育棟 大会場, A-C会場, ポスター会場

- 【9:30-10:30】 学術賞受賞記念特別講演（大会場） iii
- 【10:45-11:45】 中国古生物学会副会長特別講演（大会場） iii
- 【12:00-13:00】 ランチョン小集会（A会場） iii-iv
- 【13:00-14:00】 一般講演 ポスター発表コアタイム（ポスター会場） iv-v
- 【14:15-15:30】 一般講演 口頭発表1（A-C会場） vi
- 【15:45-17:15】 一般講演 口頭発表2（A-C会場） vii
- 【17:30-17:45】 ポスター賞表彰式（ポスター会場1付近） vii
- 【17:45-19:45】 夜間小集会（共通教育C棟） viii-ix

6月23日（日）会場：静岡大学・共通教育棟 A-C会場

- 【9:30-10:45】 一般講演 口頭発表3（A-C会場） ix
- 【11:00-12:00】 一般講演 口頭発表4（A, B会場） x
- 【13:30-14:30】 普及講演会（ふじのくに地球環境史ミュージアム） x
- 【15:00-17:00】 ふじのくに地球環境史ミュージアム館内バックヤードツアー x-xi

発表方法と機器についての注意事項など（必ずお読みください） xii

その他会場案内など xiii-xv

2019年年会参加費：一般会員 6,000円 学生会員 2,000円 友の会会員 1,000円
一般非会員 7,000円 学生非会員 3,000円 高校生以下無料（予稿集は有料，1冊 500円）

***** 2. プログラム 詳細 *****

6月21日（金）

【13:00-16:50】 静岡県男女共同参画センターあざれあ 6F 大ホール
シンポジウム「地球環境史と生命史」

コンビナー：北村晃寿（静岡大）・山田和芳（ふじのくに地球環境史ミュージアム）・
池田昌之（静岡大）

生命の誕生以降、大きく変動する地球環境のもとで、生物は進化を遂げ、様々な環境へ進出してきた。したがって、生命史の理解には、地球環境の定量的かつ高時間解像度の復元、環境変動に対する生物の応答様式、地球環境と生態系の相互作用に関する知見が必要である。近年、分析技術の開発・高度化、計算科学の進展、新たな化石記録の獲得などにより、地球環境史と生命史に関する描像が更新されている。そのため、本学会では、2016年年会シンポジウム「白亜紀の層序学・古生物の進展と環境変動」や2018年年会シンポジウム「大量絶滅の原因とプロセス」などで地球環境史と生命史の議論が盛んに行われてきた。そこで、本シンポジウムでは、上記2つのシンポジウムでは扱われていない原生代から顕生累代の地球環境-生命史イベントを網羅的に紹介し、地球環境と生態系のダイナミックな進化についての知識をさらに深めたい。

- | | | |
|-------------|-------------------------------------|--------------|
| 13:00-13:05 | 趣旨説明：地球環境史と生命史 | 北村晃寿（静岡大） |
| 13:05-13:45 | 太古代-顕生累代の気候海洋環境と微生物相 | 尾崎和海（東邦大） |
| 13:45-14:15 | 先カンブリア時代後期から前期古生代における礁生態系の変遷と地球生物環境 | 足立奈津子（大阪市立大） |
| 14:15-14:45 | 微化石から見た古生代の海洋生命史 | 上松佐知子（筑波大） |

【14:45 - 15:00】 -休憩-

- | | | |
|-------------|--------------------------------|-----------|
| 15:00-15:30 | 中生代の地球環境史と生態系の変遷 | 池田昌之（静岡大） |
| 15:30-16:00 | 中生代以降における海洋ベントス群集の変遷：生痕化石からの記録 | 泉賢太郎（千葉大） |
| 16:00-16:30 | 人間と生態系の相互作用：高解像度の地質記録から | 中川毅（立命館大） |
| 16:30-16:50 | 総合討論 | |

【17:00-18:10】 総会（静岡県男女共同参画センターあざれあ 6F 大ホール）

【18:30-20:30】懇親会（クーポール会館）

懇親会は予約制です。参加を希望される方は、必ず事前にメールかハガキで、6月11日（火）【必着】までに、お申し込み下さい。参加をキャンセルされる場合も6月11日（火）までにご連絡をお願いします。

会 場：クーポール会館（静岡市葵区紺屋町 2-2 TEL:054-254-0251

<http://www.coupole.co.jp/>)

移 動：総会后、徒歩でご案内します（15分程度）。直接出向かれる場合は、本会プログラムの会場案内をご覧ください。

会 費：一般会員・一般非会員・友の会会員…6,000円、学生会員・学生非会員…4,000円

申込先：池田昌之（静岡大）

メール：ikedam.masayuki●shizuoka.ac.jp（「●」を「@」に置き換えてください）

※件名は「日本古生物学会懇親会申込」とし、会員の種別（一般会員・友の会会員・一般非会員・学生会員・学生非会員）を明記してください。

ハガキ：〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

静岡大学理学部地球科学科 池田昌之 宛

6月22日（土）会場：静岡大学・共通教育棟

【9:30-10:30】学術賞受賞記念特別講演（大会場）

豊福高志 「微化石ができる最初の一步-ここまでわかった現生有孔虫の殻形成-」

【10:30-10:45】休 憩

【10:45-11:45】中国古生物学会副会長特別講演（大会場）

Yongdong Wang 「Vegetation and terrestrial ecosystem variations across the Triassic and Jurassic transitions in southern China」

【11:45-13:00】休 憩

【12:00-13:00】ランチオン小集会 学術標本の行方 — 大学・博物館等における学術資料標本散逸問題について考える（A会場）

世話人：堀利栄（愛媛大学）・日本学術会議 自然史・古生物学分科会 学術資料標本
散逸問題検討WG

趣旨：近年の日本社会の急速な高齢化・大量退職および高等教育・研究機関における
予算の縮小や，地方自治体の政策転換等により各地の博物館や大学の貴重な自然科学
系学術研究標本・資料が散逸する危機にさらされています．加えて近年頻発する自然
災害によって学術標本が被災するケースも増え，学術標本の保管のあり方も問われる
時代になっています．本ランチョンでは，現在古生物系の学術標本調査を実施されて
いる伊藤泰弘博士（九州大学総合研究博物館）にご講演いただき，散逸しつつある日
本の学術標本・資料の現状の把握や，古生物学・自然科学系ネットワークを通じての
それらに対する現実的な対応策・また将来的な展望などを話し会いたいと思います．
各自，昼食をご用意ください．

話題提供：伊藤泰弘（九州大学総合研究博物館）「国内古生物標本ネットワークの構
築とキュレーティングの課題」

**【13:00-14:00】 一般講演 ポスター発表（コアタイム：奇数番号 13:00-
13:30, 偶数番号 13:30-14:00）**

- P01 中川孝典・脇田浩二 化石形態の画像解析による中央値の決定方法とその意義
P02 植竹勇介・鈴木桜子・山本康晶・朝比奈俊輔・相田吉昭 CP法による新たな微化石内部
構造解析法の開発 -放散虫 *Glomeropyle aurora* への応用
P03 長畑友貴・林広樹 新潟県三条地域における中新統七谷層の浮遊性有孔虫生層序
P04 鈴木拓馬・林広樹 沖縄県宮古島沖における表層堆積物中の浮遊性有孔虫化石の殻サイズ
分析（予察）
P05 辻本彰・野村律夫 地中海におけるセジメントトラップ中の有孔虫の季節変化
P06 川原範子・入月俊明・小室隆・ト部厚志・瀬戸浩二 山口県の完新世ボーリングコアから
産出した車軸藻類卵胞子化石の形態と堆積環境
P07 江口ゆき・宮崎彩・狩野彰宏 南オーストラリアのクリオゲニア系炭酸塩岩に見られる
“海綿様構造”の再検討
P08 田中智久・入月俊明・渡辺正巳・西村友志・矢部淳 島根半島東部に分布する下部中新
統古浦層産花粉化石
P09 稲田稔貴・小松俊文・浦川良太・前川匠・高嶋礼詩・グエン ダック フォン・ザン ディ
ン フン ベトナム北部ハーザン省シーファイ峠に分布する上部デボン系のコノドント生
層序とテナキュリトイドの衰退
P10 安里開士・加瀬友喜 ペルム紀の巨大二枚貝類シカマイア属の古生態
P11 田口翔太・安藤寿男・平宗雄 福島県相馬中村層群中ノ沢層（上部ジュラ系：キンメリッ
ジアン）における堆積相と二枚貝相の変遷
P12 中村旦・大路樹生・林誠司・安藤佑介・高柳栄子・井龍康文 下部中新統瑞浪層群明世
層産エゾイガイ化石の酸素同位体比
P13 御前明洋 上部白亜系和泉・外和泉層群産ノストセラス科異常巻アンモノイドの産状
P14 村宮悠介・重田康成 北海道・中川地域の上部白亜系から発見した新たなディプロモセラ
ス科アンモナイト
P15 中田健太郎・酒井佑輔・脇本晃美・蜂矢喜一郎・久保田豪・後藤道治・佐野晋一 新たな
アンモノイド化石に基づく九頭竜層群山原坂層の時代論

- P16 佐野晋一・山田敏弘・長田充弘・大藤茂・中田健太郎 手取層群と九頭竜層群-模式地指定・再定義・時代論-
- P17 酒井佑輔・中山健太郎・藪田哲平・近藤康生 福井県九頭竜地域の下部白亜系手取層群伊月層から発見された新たな脊椎動物化石含有層より産出する軟体動物化石
- P18 生野賢司・久保田克博・田中公教・池田忠広・半田久美子・三枝春生 兵庫県丹波市の篠山層群から産出する 前期白亜紀腹足類化石の予察的検討
- P19 富田進 伊豆半島の中新統湯ヶ島層群産 *Turbo matsuzakiensis* の個体発生的研究
- P20 千代田厚史 埼玉県秩父盆地北東部・中新統富田層と子ノ神層の境界面付近から産出する生痕化石(穿孔痕と棲管)とその堆積学的解釈
- P21 平野広大・鈴木雄太郎・椎野勇太 *Isotelus* 属三葉虫のマウスガード様骨格パーツの知覚系の分布様式とその機能形態学的検討
- P22 海野奏・大塚 健斗・中島保寿 「生きている生痕化石」の形成実験: カブトガニ類生痕に関する堆積学的・行動学的検討
- P23 齋藤真伍・塚越哲・神谷隆宏 *Neonesidea oligodentata* (Kajiyama, 1913) (Ostracoda: Bairdioidea) コンプレックスの解明
- P24 大瀧杜彦・神谷隆宏 海生貝形虫 *Cythere* 上科の精子研究-*Xestoleberis setouchiensis* と極近縁種の精子形態の違い、およびメス貯精囊内の精子形態
- P25 轡田卓也・神谷隆宏 本州中部日本海沿岸における海生間隙性貝形虫の分布と種構成
- P26 大山望・前田晴良 上部三疊系美祢層群の昆虫化石密集層を含む新露頭の発見
- P27 堀口藍花・相場博明・高橋唯・井上広光・佐藤たまき 栃木県那須塩原市の中部更新統塩原層群より産出したキジラミ化石(カメムシ目キジラミ上科)
- P28 宮田真也・平山廉・中島保寿・前川優・大倉正敏・佐々木猛智 岩手県久慈市の上部白亜系久慈層群玉川層より産出した板鰓類化石群と古生態
- P29 小布施彰太・柴田正輝 福井県勝山市の北谷層より産出するゴニオフォリス科の新標本
- P30 柴田正輝 フクイサウルスの前肢の形態と機能の予察的研究
- P31 石垣忍・Mainbayar, B.・Tsogtbaatar, Kh.・秋和昌樹・實吉玄貴・林昭次・千葉謙太郎 モンゴル国ゴビ砂漠西部の上部白亜系から産出した大型アンキロサウルス類行跡化石
- P32 堀口直人・河部壮一郎・東洋一 *Allosaurus* の上顎骨および前上顎骨における神経血管系の分布
- P33 大橋智之・長谷川善和・曾塚孝 北九州市内の芦屋層群から産出したプロトプテルム科鳥口骨
- P34 皆木大生・林昭次・澤村寛・安藤達郎 成長に伴う *Paleoparadoxia* の骨内部構造の変化
- P35 辻川寛・國松豊・仲谷英夫・中務真人 ケニア、ナカリの後期中新世ウシ科化石
- P36 岩寄広大・張鈞翔・河村愛・河村善也・三田村宗樹 台湾西南部 菜寮溪流域の更新統と哺乳類化石群
- P37 鏑本武久 ニホンタヌキの成獣における距骨・踵骨のサイズ変異
- P38 木村由莉・鈴木希実・石丸拓実・大曾根達則・山田桂太 齧歯類の歯エナメル珐瑯および飲水間の同位体分別の決定のための飼育実験の開始: 呼吸、血液
- P39 荻野慎諧 古文献中にみられるクジラ類化石の記録
- P40 池上直樹・リージーパトリック・アンセルキャリー プレパレーションプロジェクト: 恐竜化石の剖出整形に関する国際連携の例
- P41 西村智弘・櫻井和彦 2018年北海道胆振東部地震によるむかわ町穂別博物館の被害と職員の対応

高校生ポスターセッション

- HP1 荒田爽楓・石川采燈・石崎諒・伊藤暁紀 古代生物をモデルにした水中ロボットの製作と評価
- HP2 伊奈朋弥・蔦原敬登・鈴木大介 静岡市清水区の高長寺のボーリングコアに基づく後期完新世の環境変化の復元

【14:00–14:15】 休憩

【14:15–15:30】 一般講演 口頭発表 1 (A-C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (1) 座長:河部壮一郎	古植物学・タフオノミーの部 座長:御前明洋	古環境学の部 (1) 座長:土屋正史
A01 平沢達矢・上杉健太朗・星野真人・真鍋真・倉谷滋 中期デボン紀パレオスポンディルスのマイクロCT 形態観察	B01 西野萌・山田敏弘 岐阜県可児市の中新統瑞浪層群平牧層から産出するサンショウモ属化石の分類学的再検討	C01 藤原勇樹・入月俊明・高橋潤・瀬戸浩二・香月興太・山田桂・Jin-Young Lee 九州北部沿岸域における過去約3,000年間の貝形虫と堆積物分析に基づく古環境の復元
A02 藤原謙如・上松佐知子・高桑祐司 群馬・長野県境に分布する兜岩層(鮮新世)から産するアカガエル化石	B02 矢部淳・北村孔志 静岡県西部地域の海成中新統家田層群より新たに発見された大型植物化石群集	C02 山田桂・中山浩嗣・榎本雄一・坂井三郎・瀬戸浩二 数日ごとに採取した試料を用いた貝形虫1殻の $\delta^{18}O$ と塩分変動
A03 平山廉・滝沢利夫 久慈層群玉川層(後期白亜紀)より産出したスッポンモドキ科	B03 増永正大・椎野勇太 泥の中の化石:活動的堆積盆地に特有の埋没過程を探る	C03 中村大亮・岡田悟・塚越哲・佐藤慎一 浜名湖における貝形虫の生息分布の変遷 - <i>Bicornucythere</i> 属の加入と分類 -
A04 小林快次・西村智弘・高崎竜司・千葉謙太郎・Anthony R. Fiorillo・田中康平・Tsogtbaatar Chinzorig・佐藤たまき・櫻井和彦 北海道むかわ町穂別から発見されたハドロサウルス科の全身骨格	B04 吉田英一・浅原良浩・大路樹生 球状炭酸塩コンクリーションの形成条件とその応用	C04 新山颯大・田中源吾・小松俊文・Phuong T. M. Nguyen・Nguyen D. Phong 中部ベトナム沿岸の現生浅海性介形虫群とその生物地理学的意義
A05 高崎竜司・アンソニー・フィオリロ・小林快次・ロナルド・ティコスキ・ポール・マッカーシー アラスカ州プリンスクリーク層リスコムボンベッドから産出した北極圏初のランベオサウルス亜科	B05 村宮悠介・吉田英一 海成泥岩中における玄能石コンクリーションの形成メカニズム	C05 藤田和彦・柳岡範子・仲田潮子・宮入陽介・横山祐典・菅浩伸・Jody Webster 豪グレートバリアリーフにおける最終氷期最盛期の大型有孔虫群集が示唆する海水準変動とサンゴ礁形成

【15:30–15:45】 休憩

【15:45-17:15】 一般講演 口頭発表 2 (A-C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (2) 座長:大橋智之	古生態学の部 座長:泉賢太郎	層序・地史の部 座長:池田昌之
A06 服部創紀・Elena Cuesta・Duangsuda Chokchaloemwong・Pratueng Jintasakul・東洋一 タイ王国ナコーン・ラチャシーマ県の下部白亜系コク・クルアト層 (コラート層群) から発見された獣脚類化石	B06 奈良正和・妹尾美紗子・山岡勇太 3本のコード状構造を有する生痕化石 <i>Scolicia</i> とその意義	C06 Guoxiang Li Cambrian Explosion: evidence from fossil records of South China
A07 Elena Cuesta・Francisco Ortega・柴田正輝・José Luis Sanz Revision of the postcranial skeleton of <i>Pelecanimimus polyodon</i> (Ornithomimosauria, Lower Cretaceous, Spain)	B07 望月貴史 上部白亜系久慈層群国丹層から産出する生痕化石	C07 Sena Kono・Yukio Isozaki・Tomohiko Sato・Xingliang Zhang・Wei Liu Revision of the lowermost Cambrian SSF biostratigraphy - pilot study in Yunnan
A08 今井拓哉・東洋一・河部壮一郎・柴田正輝・宮田和周・Min Wang・Zhonghe Zhou 手取層群北谷層 (前期白亜紀) から産出した基盤的鳥類: 系統的、古生物地理学的意	B08 江崎洋一・足立奈津子・刘建波・闫振 カンブリア紀サンゴ <i>Cambroctoconus</i> に見られる隠棲環境での成長戦略- 生息可能な空間に即応した出芽や成長-	C08 Mark Williams・Jan Zalasiewicz・Thomas W Wong Hearing・Toshifumi Komatsu・Adrian Rushton・Aqqid Saparin・Phong D. Nguyen・Hung D. Doan Graptolites and the early Paleozoic evolution of Vietnam
A09 東山大毅・栗原裕基 「哺乳類顔」を成立させた単弓類系統での劇的なシフト	B09 松原尚志・太田敏量・中村雄紀・兼子尚知・伊藤泰弘 北海道津別地域の最下部中新統津別層の新産地から得られた深海性貝類化石群集	C09 Tomoyo Tobita・Yukio Isozaki・Uyanga Bold・Yohei Matsui・Manabu Nishizawa Litho- and chemostratigraphy of the Middle Permian Lugin-Gol Fm in the Sulinheer belt in southern Mongolia
A10 三枝春生 ステゴドン科の歯の進化の謎	B10 柿本悠・佐藤慎一・千葉友樹 松島湾東名浜における東日本大震災前後の貝類遺骸集団の種構成の変化	C10 Yukio Isozaki Paleozoic extinctions, global cooling, and cosmoclimatology
	B11 天野和孝 2.75Ma の寒冷化が大桑・万願寺動物群に与えた影響	C11 Huawei Cai Biostratigraphic and biogeographic studies on the Jurassic bivalves from Tibet

【17:15-17:30】 休憩

【17:30-17:45】 ポスター賞表彰式 (ポスター会場 1 付近)

【17:45-19:45】夜間小集会

A. 日本のバージェス：師崎層群の化石鋇脈発掘プロジェクト（共通教育C棟611室）

世話人：蜂矢喜一郎（東海化石研究会）

趣旨：師崎層群（前期中新世）から深海生物化石群集が見つかり36年、東海化石研究会が図録化してから26年の歳月が流れた。その後この深海生物化石群集は世界的に他に例のないものであることが次第に明らかとなるばかりでなく、発光魚の発光器の器官が化石として残されていることなどタフオノミーの面からも超1級の化石群集であることが近年の研究で明らかとなりつつある。しかし、このような最近の研究の大半は36年前に採集された標本を使って行われたため酸化、退色など標本の経年劣化により発見当初の新鮮なデータが失われていた可能性がでてきた。

ところが1昨年、造成地の露頭から発光器を伴う発光魚などの化石を産する化石層が新たに確認された。その後、名古屋大学博物館の大路樹生館長、東海化石研究会会長の蜂矢喜一郎や九州大学総合研究博物館の前田晴良教授らの働きかけによりこの露頭の発掘調査の許可を南知多町および地権者より得ることができた。

そこでこの発掘調査について関係する会員諸氏より意見を伺い、今回の調査、研究の進め方について検討をさせていただきたく夜間小集会を召集することとなった。

話題提供：

大路樹生（名古屋大学博物館）「師崎の深海動物群から探る深海動物の古生物地理」

前田晴良（九州大学総合研究博物館）「ソトオリイワシ科深海魚化石の軟体部保存（特に発光器）」

田中源吾（金沢大学国際基幹教育院）「師崎層群から産出する深海魚類の眼の化石とその機能形態」

加藤萌（金沢大学 日本学術振興会特別研究員PD）「師崎層群の地質—化石群から推察する堆積環境とその変遷」

B. 人新世の微化石指標「マイクロプラスチック」を考える（共通教育C棟316室）

世話人：土屋正史（海洋研究開発機構）・辻本彰（島根大学）・斎藤めぐみ（国立科学博物館）

趣旨：マイクロプラスチック(MP)汚染は、海洋の広範囲かつ多量に分布するのに加え、生物への取り込みも明らかになり、大きな社会問題として取り上げられている。MP汚染の実態を把握するには、地質学や古生物学の考え方や手法が必要であり、これらの手法を用いることで、時空間的な変遷を考慮に入れた研究を展開できる。本夜間小集会では、海洋や堆積物中のMP汚染の実態、分布・分散予測といった話題提供に加え、堆積物からのMP抽出・同定法や、微化石を使ったMP研究の可能性などを議論したい。ま

た、アーカイブ試料の活用，MP を通した微化石研究の社会への発信についても意見交換したい。

話題提供：

野牧秀隆（海洋研究開発機構）：「マイクロプラスチックごみの諸問題と分析法」

辻本彰（島根大学）：「島根半島のマイクロプラスチック」

齋藤めぐみ（国立科学博物館）：「近過去の環境・生物多様性の証拠としての博物館標本」

土屋正史（海洋研究開発機構）：「近過去～現生の砂質有孔虫試料を用いた解析」

6月23日（日）会場：静岡大学・共通教育棟

【9:30-10:45】一般講演 口頭発表3（A-C会場）

A会場	B会場	C会場
古脊椎動物の部 (3) 座長: 鏑本武久	機能形態学の部 座長: 佐藤慎一	微古生物学の部 座長: 辻本彰
A11 水越友里菜・甲能直樹 生体力学からみたデスマスチ ルスの咀嚼様式の復元	B12 椎野勇太・小西雄二・鈴 木雄太郎 大型三葉虫 <i>Isotelus</i> に想定された捕食者 仮説の実現不可能性	C12 堀利栄・相田吉昭・竹村 厚司・山北聡・小玉一人・K. Bernhard SPÖRLI 三疊紀新世 放散虫古生物地理区分のため の予察的検討
A12 川谷文子・甲能直樹 佐 渡島中部中新統鶴子層より産 出する鯨類を中心とした日本 海海棲哺乳類相	B13 新垣裕康・鈴木雄太郎 三葉虫 <i>Pricyclopyge gallica</i> 複眼における成長様式：新奇 性獲得との関係	C13 松岡篤 ジュラ・白亜紀 境界付近における放散虫の多 様性と系統進化
A13 北川博道 意外と多様な？ 更新世の化石クマ相	B14 瀬尾絵理子・瀬尾芳輝・小 島茂明 シロウリガイ類の潜 掘様式	C14 野牧秀隆・Chen Chong・小 田加也・土屋正史・松崎琢 也・多米晃裕・植松勝之 底 生有孔虫 <i>Chilostomella</i> 細胞 内の板状構造と推察される役 割
A14 半田直人 栃木県葛生地 域から産出した更新世サイ科 “ <i>Rhinoceros</i> sp.” の分類学 的再検討	B15 太田未来・延原尊美・長井 裕季子・豊福高志 シロウリ ガイ類の足の形状変化とその 適応的意義	C15 土屋正史・野牧秀隆・木元克 典・中嶋亮太・北橋倫・川村喜一 郎・生田哲朗・小栗一将・千葉早 苗・藤倉克則 人新世の微化石 指標：砂質有孔虫を用いたマ イクロプラスチック汚染の実 態把握
A15 河村善也・河村愛・張鈞 翔 台湾の第四紀齧歯類化石 についての新知見	B16 柴原将成・藤原慎一・大路 樹生 ウミユリとウミシダの 筋関節の機能形態学	

【10:45-11:00】休 憩

【11:00-12:00】一般講演 口頭発表 4 (A, B会場)

A 会場	B 会場
古環境学の部 (2) 座長:山田桂	形態解析・古生態学の部 座長:椎野勇太
A16 鈴木苑子・上松佐知子 福島県東棚倉地域に分布する中新統久保田層の層序および古環境と古生物	B17 安里開士・加瀬友喜 ペルム紀の巨大二枚貝類シカマイア属の形態進化
A17 有元純・西弘嗣・黒柳あずみ・高嶋礼詩・松井浩紀・池原実 中期始新世における北西大西洋表層の熱的成層構造：IODP Site U1408 コア試料に含まれる浮遊性有孔虫化石の安定同位体比分析による推定	B18 延原尊美・外崎辰弥・楠賢司 タマキガイ科二枚貝 <i>Glycymeris totomiensis</i> と <i>G. rotunda</i> の殻の厚質感についての定量的比較とその古生態学的意義
A18 川幡穂高 現代日本人のミトコンドリア DNA に記録された環境イベント	B19 棚部一成・白井厚太郎・杉原(村上)奈央子・窪田薫・宮地鼓 北海道オホーツク海沿岸産二枚貝類 3 種の殻成長様式と寿命
	B20 岩田繁英・吉田勝彦・棚部一成 二枚貝の最適な生活史戦略の探索

【13:30-14:30】普及講演会

「七万本の縞を数える -日本の「泥」が世界の「標準時計」になるまで-」

- ・講師：中川毅（立命館大学古気候学研究センター・センター長／教授）
- ・会場：ふじのくに地球環境史ミュージアム・講堂（静岡大学から徒歩約15分、静岡駅北口バスターミナル（8-B乗り場）から美和大谷線「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行き（約30分）終点下車すぐ）
- ・定員：150名（申し込み不要）（13:00開場予定）

【15:00-17:00】ふじのくに地球環境史ミュージアム館内バックヤードツアー

- ・案内者：山田和芳（ふじのくに地球環境史ミュージアム）
- ・集合場所：ふじのくに地球環境史ミュージアム・エントランス（静岡大学から徒歩約15分、静岡駅北口バスターミナル（8-B乗り場）から美和大谷線「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行き（約30分）終点下車すぐ）
- ・集合時間：14:50

- ・定員：20名（抽選）
- ・参加申し込みの締め切り日：2019年5月31日．参加決定者には別途詳細を連絡します（参加決定のお知らせは6月5日を目処にお送りいたします）．
- ・申し込み方法：下記 URL（学会ホームページ行事案内からのリンクもあります）から参加申し込みフォームにご入力をお願いします．
- ・申し込み参加フォームの URL：
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeKsWVo7JKFGXffr9vRe_c01WKQGxSD9LP-U6ClEewfg5Hz7kQ/viewform
- ・スマホなどは下記 QR コードからでも登録できます．



***** 3. 発表方法及び機器についての注意事項など *****

<口頭発表をされる方へ>

【重要！】口頭発表はパソコン等持参です！貸出はありません。

- ・接続端子は、HDMIかmini D-Sub15ピンの2種類のみです。それ以外の端子の場合はご自身で変換アダプターをお持ち下さい。
- ・休憩時間などに接続状況を確認して下さい。接続作業時間も講演時間に含みます。
- ・プロジェクター画面は原則として4：3画角となります。
- ・デュアル・ディスプレイ設定のノートパソコン（普段、外部モニターと併用しているノートパソコン）は、接続前にシングルモニターに切り替えて下さい。
- ・パソコン等の操作や接続は、発表者ご自身でお願いします。
- ・一般講演の口頭発表時間は15分です（質疑応答、使用機器の接続時間含む）。

<ポスター発表をされる方へ>

- ・ポスターのサイズはA0（横841 mm×縦1189 mm）が基準です。一発表につき、指定された1面のみをご利用下さい。貼り付け場所は共通教育A棟（A203, A204, A205）ですが、貼り付け指定場所は当日にご確認ください。
- ・ポスターは6月22日（土）の11：00から貼ることができます。また、23日（日）の12：30までに各自撤収して下さい。詳しくは会場受付または会場係員までお尋ね下さい。
- ・ポスター掲示用の画鋏は会場で用意します。

会場及び発表方法・機器に関する問い合わせ先

開催実行委員：池田昌之（ikeda.masayuki●shizuoka.ac.jp）Tel: 054-238-4797

北村晃寿（kitamura.akiyuki●shizuoka.ac.jp）Tel: 054-238-4798

* 「●」を「@」に置き換えたうえ、必ず両名へメール願います。

* メール題目「古生物学会2019静岡大・問い合わせ」

行事係：遠藤一佳（東京大学）E-mail：endo@eps.s.u-tokyo.ac.jp

その他

- **ご来場について**：公共交通機関をご利用下さい。シンポジウム・懇親会は JR 静岡駅が最寄りとなります。

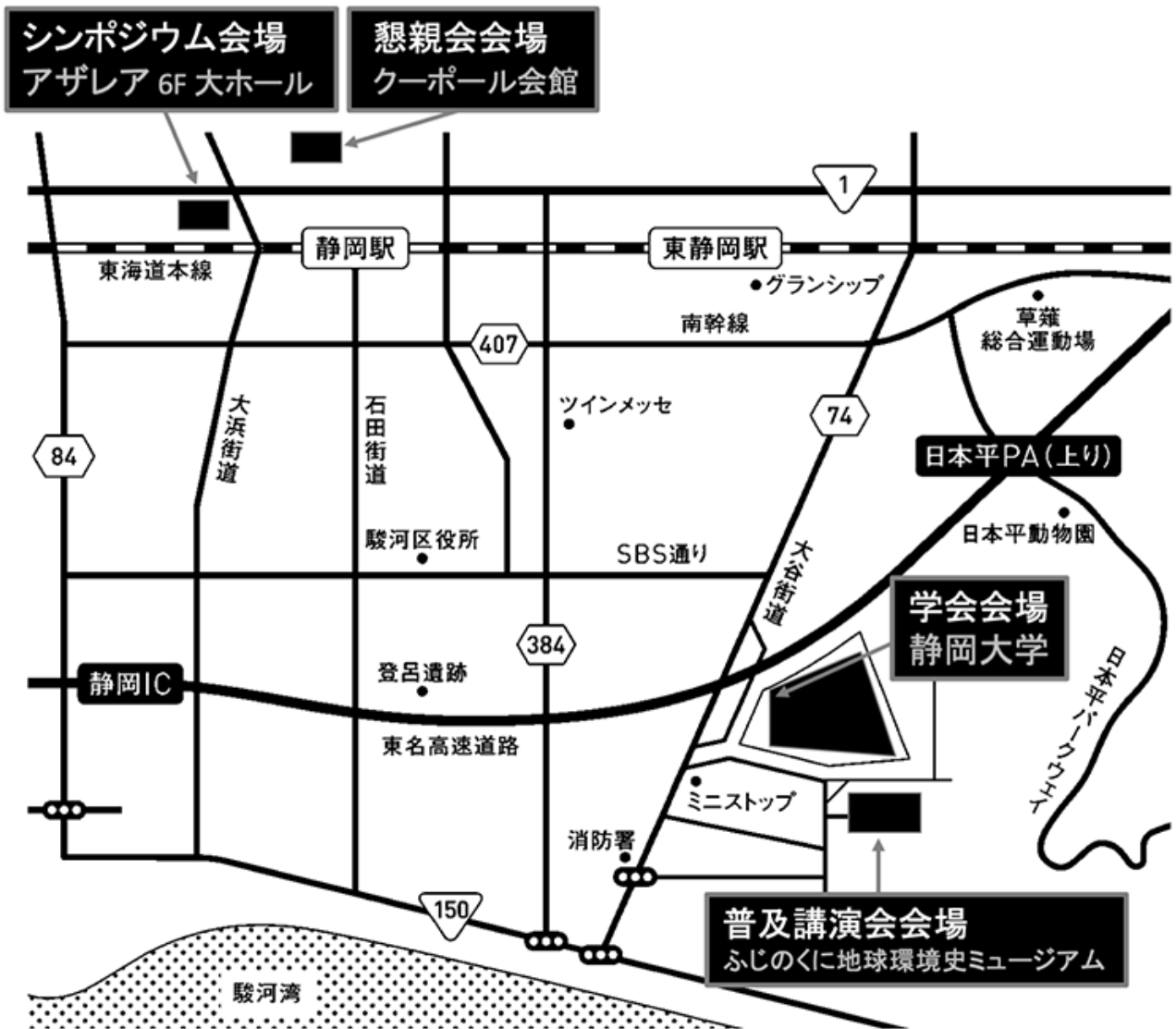
静岡大学 JR 静岡駅北口のしずてつジャストラインバス 8B 番乗り場から美和大谷線「静岡大学」行き、「東大谷」（静岡大学経由）行き、「ふじのくに地球環境史ミュージアム」（静岡大学経由）行きに乗車し「静岡大学」又は「静大片山」で下車。
美和大谷線「東大谷」（静岡大学を経由しないもの）行きに乗車した場合は、「片山」で下車。

ふじのくに地球環境史ミュージアム 「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行きに乗車し、「終点・ふじのくに地球環境史ミュージアム」で下車。

- **IC 乗車券**：Suica などの交通系 IC カードが利用できます。
- **標本展示等希望者**：北村晃寿（kitamura.akihiisa ● shizuoka.ac.jp）と池田昌之（ikedama.masayuki ● shizuoka.ac.jp）へ5月19日（日）までにメールにてご相談下さい（●を@に置き換えて送信願います）。詳細をお知らせします。メール題目は「古生物学会2019年静岡大・出展」でお願いします。希望数によってはお断りすることもございます。予めご容赦ください。
- **懇親会について**：本プログラム iii ページ参照。
- **お食事**：会場 A, B, C のいずれも飲食可能です。
6月22日（土）：キャンパス内の大学生協の第一食堂（11:30～13:30）とフードショップ（11:00～14:30）。欠品になる恐れがあります。
- **喫煙**：静岡大学の敷地内は建物の内外を問わず、全面禁煙となっています。
- **託児所**：市内には託児施設がありますので、各自お調べください。
- **盗難対策**：本学会を含め、学会開催中の盗難が報告されています。貴重品は各自の責任で管理をお願いいたします。
- **写真およびビデオ撮影について**：発表者の許可なく講演およびポスター発表を撮影することを禁止します。

***** 4. 会場案内 *****

全体図



学会会場への交通

【シンポジウム会場】 JR 静岡駅より徒歩約 10 分.

【懇親会会場】 JR 静岡駅より徒歩約 5 分.

【学会会場】 JR 静岡駅北口バスターミナル 8-B 番乗り場から美和大谷線「静岡大学」行き、「東大谷」（静岡大学経由）行き、「ふじのくに地球環境史ミュージアム」（静岡大学経由）行きに乘車し「静岡大学」又は「静大片山」で下車. 美和大谷線「東大谷」（静岡大学を經由しないもの）行きに乘車した場合は、「片山」で下車（所要時間 25 分）.

【普及講演会会場】 JR 静岡駅北口バスターミナル 8-B 番乗り場から美和大谷線「ふじのくに地球環境史ミュージアム」（静岡大学経由）行きに乘車し、終点で下車（所要時間 30 分）

会場見取図

